

皮膚や内臓の「できもの」を
調べる、細胞診という
検査があります。



動物に負担の少ない細胞診検査をご紹介します。

細胞の顕微鏡検査

細胞診検査

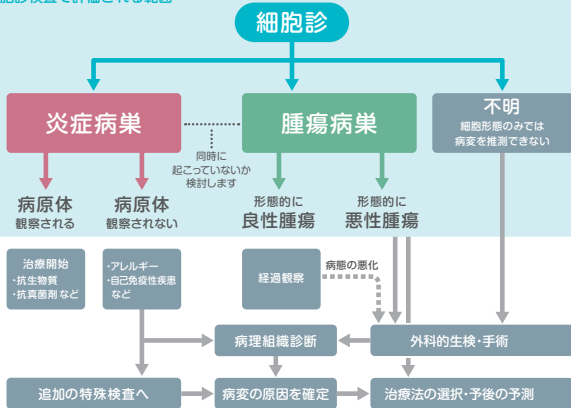
人間と同様に動物も体の表面や内臓に「できもの」ができることがあります、必ずしも「癌」-悪性腫瘍とは限りません。病原体の感染や炎症に関連した病気や良性腫瘍の場合もあります。そこでまず動物に負担の少ない細胞診検査で病変を調べます。

細胞診とは、どんな検査ですか？

注射針を使って「できもの」内の細胞を採取し顕微鏡でその様子を観察します。どのようなタイプの細胞が採れているか？観察されている細胞に形態的な異常があるか？などを調べることで「できもの」の原因として『どのような可能性が考えられるか』を評価します。細胞診検査で得られた情報は、次に進むべき検査の内容や手術の必要性、さらに今後どのような治療を行うかなど、この先の診断・治療方針を決定する際に役立ちます。

細胞診検査を行うことで今後の診断・治療方針が立てやすくなります。

細胞診検査で評価される範囲

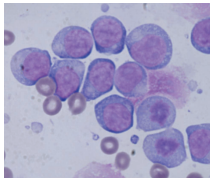


細胞を採取する際は痛みを感じますか？

細胞診検査で使用する注射針は、採血や投薬で使われる注射針と同じものです。そのため感じる痛みは最小限。さらに多くの場合※、全身麻酔を行うことなく検査に必要な量の細胞を採取することができます。



注射針を使って細胞を採取します。



採られた細胞を顕微鏡で観察します。

※写真はリンパ腫

※処置を嫌がる部位から細胞を採取する場合、または安全面などから獣医師が必要と判断した場合には、全身 / 局部麻酔や鎮静処置を行うことがあります。